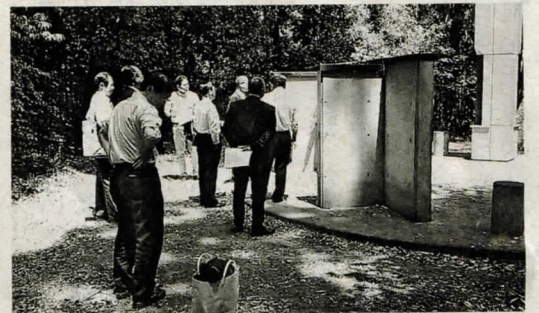


「請願の判断材料に」

自民県議団 朝鮮人追悼碑を視察

高崎市の県立公園「群馬の森」の朝鮮人追悼碑をめぐる、許可取り消しを求め、請願が県議会に提出されたことを受け、自民党県議団の16人が14日、追悼碑を視察した。写真。

視察には県職員が同行し、追悼碑の設置経緯などを説明した。県議からは、碑の設置団体が「追悼碑を守る会」が、9日付で県に提出



した回答書や、県議会に寄せられた請願書の内容などについて質問が挙がった。県議団長の狩野浩志県議は「碑を実際に見たことがない県議もいたので、現地を確認する目的で来た。(請願の)判断の参考にした」と話した。

朝鮮人強制連行犠牲者追悼碑 設置許可の不更新を請願

市民団体

県立公園群馬の森(高崎市綿貫町)にある朝鮮人強制連行の犠牲者を追悼する碑の設置許可の不更新を県が

している。このような集会の象徴の碑の設置は許可されるべきでない」と話した。

保留している問題で、拉致被害者の家族を支援する市民団体「救う会・群馬」が、許可を更新しないよう求める請願書を県議会に提出した。議会事務局議事課によると、提出は13日付で同様の請願書は3件目。

請願書で同会は、碑の前で行われた集会について「日本政府に対して謝罪と賠償を要求するなど明確な政治的行事が行われ、明らかな設置許可条件違反」としている。同会の大野敏雄事務局長は取材に、集会で朝鮮総連幹部の発言に触れ「拉致問題の当事者である北朝鮮を支持する人間が県有地で政治色をあらわに